

平成30年度第2回成田市社会教育委員会会議概要

1 開催日時 平成31年1月29日(火) 午前9時30分～午前10時35分

2 開催場所 成田市中央公民館2階 第3・4研修室

3 出席者 (委員) 日暮健委員, 村島義則委員, 湯浅美智子委員
多田初枝委員, 松岡薫委員

(事務局) 神崎生涯学習課長, 丸副参事
成毛社会教育係長, 小野寺青少年教育係長
谷口主任主事, 齋藤主事

4 報告

- (1) 千葉県社会教育振興大会について
- (2) 明治大学・成田社会人大学について

5 議事

- (1) 放課後子ども教室における課題について
- (2) その他

6 会議の内容

- (1) 放課後子ども教室における課題について意見を求めた。
- (2) 社会教育委員・公民館運営審議会委員・図書館協議会委員合同視察研修について、説明した。

《発言要旨》

4. 報告

- (1) 千葉県社会教育振興大会について(報告)

千葉県社会教育振興大会に参加した各委員と事務局からの感想

委員: 人生100年時代に向けた社会教育の課題という話もでたが, 長生きリスクという言葉もあった。孤独死や年金では暮らせず貧困になるなどの課題も多い。100年生きるということで健康寿命を延ばしていかないと考える。分科会においては, 第一分科会に参加して意見交換を行ったが「少子高齢化」「若年層のリーダー育成」「人材バンクの構築」など各自治体課題や議題は共通していた。

委員: 講演では, 自分に置き換えて, 自分だったらどうするかということを考えて聞いていたが, 健康と仲間が大事だと思った。事例発表では, 本市の青少年相談員の活動について発表があったが, 私も青少年相談員として, オールナイトハイクの第1回目から3回目まで携わっていたが, なつかしく思いながら聞いていた。全市的な取り組みである綱引き大会については, 市外の方が感心しな

から聞いているのではないかと感じた。ただ、相談員の中には早朝練習をしてから、仕事に行く人もいと聞いているので、そのあたりは考える部分がある。分科会では浦安市から地域で連帯していく上でのキーワードで「防災」がでた。避難訓練を通じて地域の連帯や防災教育をやるなど意見がでた。浦安市では、少年消防団という組織があり、地域で避難訓練を行って、担架だけが人を運んだり、消火活動を行うという大人がするような訓練を小学 5、6 年生が行っている。

委員：人生 100 年時代となっているが、自分の地域を考えてみるといろいろな意味でのコミュニケーションがなくなり、地域の中の集まりが減っている。先生は、地域との繋がりが薄れてく中で生涯学習を通じたコミュニケーションが大切だと言っていた。地域の中で自分に何ができるのかを考えた時に組織との繋がりが無いとどうしたらいいのかと考える。どこにも属していない人などは課題が多い。

事務局：例年 7 月の最終金曜日夕方から土曜日朝にかけて開催され、昨年度は参加者数が 500 名を超えたオールナイトハイクと例年 2 月に開催され、参加者数が 1,500 名を超える綱引き大会の様子を実際の大会映像を流しながら、会長自ら発表していただいた。綱引き大会の決勝の映像が流れた際には、会場全体がスクリーンに引き込まれていく様子わかるほど、参加者の皆さんは発表に見入っていた。相談員の方々の活動の様子も流れたが、青少年相談員に関する事業を所管する課としても、県内でも 1、2 を争うほどの活発な青少年相談員活動を支えてくださる皆様に感謝を申し上げたい。

(2) 明治大学・成田社会人大学について（報告）

質疑等なし

5. 議事

(1) 放課後子ども教室における課題について

質疑等

委員：コーディネーターの発掘について、地域の青少年健全育成協議会とはどのように関わっているのか。

事務局：現在は、学校と保護者の方との連携の中、コーディネーターさんや市民の方を通じてその中から探している。組織として、直接協議会と関わっているわけではない。

委員：自分がいる地域の協議会は PTA の奥様が中心となって活動している。地域とのつながりがあるので、協議会の中でコーディネーターを行ってくれる方はいないのかと思い聞いてみた。

委員：平成 26 年から八生小学校の放課後子ども教室が始まった。八生は人数も少なく、年々減っている。参加者も低学年が中心である。サポーターなどの手伝ってくれている方の構成も変化し、PTA の母親の皆さんも仕事をしている

ため、籍はあるが参加ができない状況。コーディネーターの人材を掘り起こすということで、今後広報で周知するようだが、それはいいことである。放課後子ども教室の存在を知らない人も多い。学童はわかる人はいるが、放課後子ども教室は認識されていない。ボランティア状態なのでコーディネーターの負担は大きい。私は八生小学校の近くに住んでいるので、色々な活動ができる。ただ、子供だけでなく福祉施設の人とも交流していて、子どもは目を輝かせながら参加している。やっていることが地域に理解されているかが大事だと思う。

委員：1度遠山小の放課後子ども教室に参加したことがある。その時のコーディネーターは学校の父兄だった。父兄じゃなくてもコーディネーターは可能か。父兄だけだと負担が大きいと思う。コーディネーターは一人か。

事務局：コーディネーターは父兄でなくでもいい。複数でもいいが基本的に一人。

委員：年に何回も活動するのであれば交代できるのではないか。負担が減る体制を設けてもいいのでは。コーディネーターやスタッフの負担を少なくするのも課題。地域ごとの人材バンクなど、うちの地域にはこんな人材がいるなどの情報を学校側は知らないと思う。そういう整備の必要性もある。少しなら手伝えるという人もいるのではないか。生涯学習課の「まなび&ボランティアサイト」のように具体的な活動や人材が検索できるようなシステムが構築されていけばいいと思う。

委員：コーディネーターが企画をした時に、どういう人に頼めば実施できるのかわかれば活動もしやすいし、負担も少なくなる。

委員：持続可能にするには、コーディネーターの存在が絶対に重要になる。久住小では、学校支援地域本部事業を行っており、そこには人材バンクがあるので、小学校の地域支援団体や中学校のボランティアのリストを持っている。この時はこの人に頼もうということが出来る。さらにコーディネーターを増やすよりも、この事業をやっているところであれば連携してやってみてはどうか。この事業の実施場所も学校なので、学校支援推進委員会という会議を月に1度行い、学校側も参加して細かな打ち合わせをしている。

委員：放課後児童クラブでも同じようなことを行っているのか。

事務局：放課後児童クラブとは学童のことだが、学童の中でもその中の先生たちが企画をして夏休みは夏祭りやお店屋さんごっこなど、学童に通っている子供たちを対象に行っている。

委員：有料か。

事務局：有料である。

委員：将来的には、大きな括りの中で、学童と放課後子ども教室を一体化した方がいいと思った。

事務局：学童は保護者が迎えに来るまで間の生活の場として設けている。連携は必要なので、放課後子ども教室が終わってからお迎えが来るまで学童にいく子もいる。

委員：豊住小学校の放課後子ども教室は、主任児童委員がコーディネーターを担っ

ており、代々ノウハウを引き継いでいる。

委員：コーディネーターは文書の作成や学校の調整があるなど、経験をもった人でないと一般の方では難しい。一つ行うにしても段取りをする時間が必要なのでコーディネーターの負担は大きい。初心者は難しいと思う。自営業で時間がとれる人は協力してくれるけど、子どもの迎えなどの家庭の事情で協力できない方も多く、学校事業を理解している人でないと難しい。

委員：豊住地区では、子供たちの活動を支援するために、地区の健全育成協議会が関わっている。

(2) について

意見等なし

6. 傍聴

0名